

## エルサレムのパウロ

伝道者フィリポの家でしばらく休んで旅の疲れを癒した後、パウロとその一行はカイサリアを出発、約 64 マイルの長旅を終えてついにエルサレムに到着した。ルカやテモテら異邦人教会の代表者であるパウロの同行者たちにとって、主イエスが歩まれ、また死なれ、よみがえられたエルサレムに到着したということは、実に感慨深いことであつたにちがいない。

到着した日の翌日、パウロは八人の異邦人教会の指導者たちを連れてエルサレム教会の指導者ヤコブと長老たちを正式に訪問し挨拶した後、異邦人伝道の結果を詳しく報告した。一同はこれを聞いて神をほめたたえた。

しかしエルサレム教会の指導者たちには一つの心配があつた。それは、使徒パウロが伝道の先々で異邦人の中にいるユダヤ人に対して、子供に割礼を施すな、またユダヤの慣例に従ふ必要はないと言つて、モーセの律法にそむくようなことを教えているといううわさが、ユダヤ本国にいる信者たちの間に伝えられていたからである。

ユダヤ人キリスト者たちは先祖伝来の生活習慣やモーセの律法に従つて歩むことに熱心であつたから、その根拠のないうわさは、彼らがパウロの異邦人伝道を受け入れるかどうか、また異邦人教会を正当な仲間として受容するかどうかを決する重要な問題であつた。

そこでエルサレム教会の指導者たちは、そのうわさが事実無根である事を示し、またパウロに対するユダヤ人信徒たちの誤解を解くために、一つのことをするようにパウロに提案した。彼らは言つた、「わたしたちの中に誓願を立てた者が四人います。この人たちを連れて行って一緒に身を清めてもらい、彼らのために頭をそる費用を出してください。そうすれば、あなたについて聞かされていることが根も葉もなく、あなたは律法を守つて正しく生活している、ということがみんなに分かります」(23、24 節)。

長老たちのこの提案にパウロは同意した。パウロは原則の人であつた。福音の真理に関わることに對しては一步もゆずれず命をかけて戦つた人であつた。しかし福音の真理に関わらない事に関しては、実に寛大で心の広い自由の人であつた。「救われるためにはモーセの律法を守らなければならない」というパリサイ主義的律法遵守の要求に對しては、彼は断固として拒否の態度を取つたが、しかし、そうでない場合は、福音の宣教と人々の救いのために、あえて(喜んで)他人の立場や状況に自分を合わせていくことの出来る人であつた。それゆゑ彼は、ユダヤ人キリスト者の誤解を解くために、また自分の異邦人伝道が受け入れられ、さらにユダヤ人教会と異邦人教会と一致の促進のためにも、喜んで神殿の清めの儀式に参加することを決心した。

彼は言う、「わたしは、だれに對しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。ユダヤ人に對してはユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法に支配されている人に対しては、・・律法に支配されている人のようになりました。律法に支配されている人を得るためです。また・・律法を持たない人に対しては、律法を持たない人のようになりました。律法を持たない人を得るためです。弱い人に対しては弱い人になりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となる為です」(第一コリント 9: 19~23)。